

「子どもの未来を応援する首長連合」設立趣意書

日本の未来を担うのは、子どもたちです。

子どもたちが明るい未来を夢見て生きていくには、自らの可能性を信じて前向きに挑戦し、未来を切り拓いていける社会を作ることが必要です。子どもの将来がその生まれ育った環境に左右され、子どもたちの無限の可能性の芽が摘まれるようなことは決してあってはなりません。

しかしながら、近年の都市化や核家族化、地縁的つながりの希薄化等が相まって、経済的困窮などにより、様々な困難が生じたときに、家庭が必要な支援につながらず孤立しやすくなっています。そして、その家庭の子どもたちの中には、基本的な生活習慣、自立心・自制心、社会的なマナー・コミュニケーション能力などを身につけることが困難な状況に陥っているケースもあります。さらには、子どもたちの良好な学習環境の不足や、自己肯定感・自尊感情を十分に育めない環境など、生まれ育った家庭の状況に子どもたちの将来が左右されて、再び、経済的困窮家庭を形成するという、いわゆる「貧困の連鎖」が現実社会で生じています。

このような現実直面して、既に、子どもの貧困対策の推進に関する法律が成立・施行され、政府の子どもの貧困対策に関する大綱や都道府県子どもの貧困対策計画などにより、政府と各自治体が協力・連携して各種施策が推進されつつあります。また、自治体によっては、貧困の連鎖を断ち切るための組織を設置するなど、地域の実情を踏まえた独自の取り組みが具体的に開始されています。

真に「貧困の連鎖」の課題を解決するには、各自治体が、教育・福祉・労働等の施策を有機的に組み合わせ、地域の力を最大限活用して、長期的、継続的に取り組みを推進していくことが不可欠です。それぞれの地域が、地域の特性を踏まえ、自らの地域の特色を活かした取り組みを提案・実践していくことが重要です。

また、こうした取り組みをその地域だけに止めることなく、広域的な連携を図りながら進めることにより、それぞれの地域、そして日本の魅力と総合力を生み出すこととなり、地域社会の活性化にもつながっていくものと考えます。

こうした現状認識の下、貧困の連鎖を断ち切る具体的な取り組みを戦略的かつ効果的に実践していくとともに、各自治体の知恵と力を結集し、子どもが希望をもって社会に羽ばたいていけるよう、ここに「子どもの未来を応援する首長連合」の設立を発起する次第であります。

平成28年5月17日

発起人	佐賀県武雄市長	小松 政
	大阪府箕面市長	倉田 哲郎
	大阪府八尾市長	田中 誠太
	茨城県古河市長	菅谷 憲一郎
	長崎県大村市長	園田 裕史